

審判員派遣報告書

派遣事業名	第30回四国中学校バスケットボール黒潮新人大会	派遣期日	令和6年2月12日
報告者	宮本一巧	派遣先	高知県高知市

1 大会概要

大会名称	第30回四国中学校バスケットボール黒潮新人大会	大会期間	令和6年2月11日～12日
大会概要	四国4県の男女各上位2チームが参加。新人戦の四国大会という位置づけである。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和6年2月12日	会場	春野総合運動公園体育館
審判クルー	CC: 久樹拓矢（徳島） U1: 笹原裕希（高知） U2: 宮本一巧（香川）		
担当試合	城西（高知） VS 古高松・高松北（香川）		
試合内容	古高松・高松北は連合チームではあったが、大きさと個々の1対1のスキル、そして城西のインサイドの大きな選手をしっかり守るディフェンスが目立った試合であった。		

日程	令和6年2月12日	会場	春野総合運動公園体育館
審判クルー	CC: 佐野遥菜（高知） U1: 渡邊誠人（高知） U2: 宮本一巧（香川）		
担当試合	津田（徳島） VS 高知（高知）		
試合内容	津田の方は体調不良者が多く、ベンチプレーヤーが少ない状況であった。それに伴い高知の方も控え選手のプレイ時間が増え、ターンオーバーが非常に多くなる試合であった。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●ゲーム時間の遅延について

PGCでは各チームの選手の特徴はもちろん、ベンチやその観客の振る舞いについての情報を共有した。しかし、リスタートに関しては事前に共有していたにも関わらずタイムアウト後のそれに時間がかかり全体的なゲーム時間が長くなる結果となった。その原因としては、ゲーム中にもクルー間でリスタートについて確認し、ベンチ側に終始口頭で注意を促していたが、それ以上の対応ができず、十分に理解・認識して頂くことができなかったことが挙げられた。予定の時間内でゲームを進行していくのも審判員の大きな役割である。しかしそれは審判員のみでは困難であり、プレーヤー、ベンチ、観客と一緒に作るものである。そのファシリテーターとしての役割の難しさを改めて再認識させられた。

●初めての県外での活動を終えて

自分のこれまでの審判活動では香川県内の試合だけであったが、今回U15の四国大会ということで初めて県外の場所で、他県の審判員とのクルーを経験させて頂いた。審判員の立場として感じる会場の雰囲気、審判控室でのディスカッション、ゲームに向けた準備などすべてが初めての経験であり、今後の自分自身の審判活動にとって非常に刺激を受けた機会となった。最後に、参加の機会を与えて下さった香川県協会の皆様に感謝申し上げます。今後とも引き続き、よろしくお願い致します。